



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月12日

上場会社名 日本農業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4997 URL <https://www.nichino.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 友井 洋介
 問合せ先責任者(役職名) 管理本部総務・法務部長 (氏名) 永井 統尋 (TEL) 03-6361-1400
 四半期報告書提出予定日 2020年11月12日 配当支払開始予定日 2020年12月11日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	29,041	—	1,571	—	1,060	—	1,220	—
2020年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 △296百万円(—%) 2020年3月期第2四半期 ー百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	15.51	—
2020年3月期第2四半期	—	—

2020年3月期は決算期の変更により、2019年10月1日から2020年3月31日までの6カ月間となっております。これに伴い、2020年3月期第2四半期連結財務諸表を作成していないため、2020年3月期第2四半期の連結経営成績及び2021年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	97,016	57,676	58.5
2020年3月期	102,214	58,372	55.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 56,787百万円 2020年3月期 56,439百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	—	—	4.00	4.00
2021年3月期	—	7.50	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2020年3月期は決算期の変更により、2019年10月1日から2020年3月31日までの6カ月間となっております。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	67,100	—	3,700	—	2,800	—	2,000	—	25.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2020年3月期は決算期の変更により、2019年10月1日から2020年3月31日までの6カ月間となっております。このため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期2Q	81,967,082株	2020年3月期	81,967,082株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	3,329,949株	2020年3月期	3,192,332株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期2Q	78,704,422株	2020年3月期2Q	一株

期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式を自己株式に含めて記載しております。

2020年3月期は決算期の変更により、2019年10月1日から2020年3月31日までの6カ月間となっております。これに伴い、2020年3月期第2四半期連結財務諸表を作成していないため、2020年3月期第2四半期の期中平均株式数 (四半期累計) については記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

前連結会計年度は、決算期の変更により、2019年10月1日から2020年3月31日までの6カ月決算となっております。これにより、当第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日）に対応する前年同四半期連結累計期間がないため、前年同四半期との比較は行っておりません。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により依然厳しい状況が続いております。緊急事態宣言の解除後は経済社会活動が緩やかに再開し個人消費や企業の生産活動など一部持ち直しているものの、国内外の同感染症の動向など先行きは不透明な状況にあります。

農業を取り巻く環境は、世界的な人口増加や新興国の経済発展を背景とした農産物需要の拡大から引き続き伸長するものと考えられます。一方、国内農業においては農家の高齢化や後継者不足の深刻化、耕作放棄地の増加などの構造的な課題の解決は進んでいません。これに対し政府の農林水産業・地域の活力創造本部ではドローンやIoT、AIなどを活用したスマート農業の現場実装による生産性の向上が議論されています。

なお、当社は本年4月より農業生産の効率化による生産者支援の一環として、AIを活用して病害虫、雑草を診断し、且つ防除に適切な農薬情報を検索・提供するツールとしてスマートフォンアプリケーション「レイミーのAI病害虫雑草診断（水稻版）」の無料配信サービスを開始しました。

このような状況下、当社グループは中期経営計画「Ensuring Growing Global 2021 (EGG2021) グローインググローバルを確実に！」に取り組み、収益性の向上とグループ力の強化を目指しております。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、290億41百万円となりました。利益面では、営業利益は15億71百万円、経常利益は10億60百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は12億20百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における報告セグメントの概況は以下のとおりです。

[農薬事業]

国内農薬販売では、新製品4剤の販売を開始し品目ポートフォリオの拡充を図るとともに園芸用殺菌剤ピラジフルミド（国内商品名「パレード」）などの主力自社開発品目の普及拡販に努めました。また、前期より商慣習改善による農薬の使用時期および流通実態に即した販売への平準化を図ったことなどから売上高が伸長しました。

海外農薬販売では、新型コロナウイルス感染症拡大による流通への影響懸念から荷動きが早まりました。地域別では、北米で棉の作付面積減少や害虫の小発生からNichino America, Inc.の売上高が伸び悩みました。また、ブラジルでは農薬需要は回復基調にあるものの競争激化などからSipcam Nichino Brasil S.A.の販売が低迷しました。一方、インドでは殺虫剤フルベンジアミド（国内商品名「フェニックス」）の普及拡販に努めました。また、Nichino India Pvt. Ltd.で雨季作向け除草剤の需要が高まったことや今期より販売を開始した園芸用殺虫剤トルフェンピラド（国内商品名「ハチハチ」）の販売が好調に推移し、売上高が伸長しました。さらに、欧州では競合剤から市場シェアを獲得したばれいしょ枯凋剤ピラフルフェンエチル（国内商品名「デシカン」）の販売が増加したことなどからNichino Europe Co., Ltd.の売上高が伸長しました。

これらの結果、農薬事業の売上高は257億2百万円、営業利益は8億94百万円となりました。

なお、2019年2月に日本およびインドにて農薬登録申請していた当社が独自に発明した新規水稻用殺虫剤ベンズピリモキサン（国内商品名「オーケストラ」）は、本年9月14日付で日本国内の農薬登録を取得いたしました。販売開始時期は2021年5月を予定しております。

[農薬以外の化学品事業]

化学品事業では、住宅着工戸数の減少から株式会社アグリマートでシロアリ薬剤の販売が伸び悩みました。

医薬品事業では、外用抗真菌剤ラノコナゾールならびにルリコナゾールの売上高が伸長しました。

これらの結果、農薬以外の化学品事業の売上高は24億40百万円、営業利益は9億5百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ51億97百万円減少し、970億16百万円となりました。これは、現金及び預金の増加を上回る売上債権及びたな卸資産の減少が主な要因です。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ45億円減少し、393億40百万円となりました。これは、長期借入金の増加を上回る仕入債務及び短期借入金の減少が主な要因です。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ6億96百万円減少し、576億76百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加を上回る非支配株主持分の減少が主な要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、2020年11月5日公表の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,010	21,683
受取手形及び売掛金	31,231	21,374
電子記録債権	1,574	1,477
商品及び製品	15,556	14,147
仕掛品	693	862
原材料及び貯蔵品	5,962	5,939
その他	3,435	2,738
貸倒引当金	△133	△135
流動資産合計	72,331	68,089
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,804	4,598
機械装置及び運搬具（純額）	3,476	3,446
土地	5,917	5,874
その他（純額）	657	678
有形固定資産合計	14,855	14,597
無形固定資産		
のれん	2,941	2,804
その他	1,251	1,188
無形固定資産合計	4,192	3,993
投資その他の資産		
投資有価証券	5,147	5,534
その他	6,053	5,127
貸倒引当金	△366	△325
投資その他の資産合計	10,834	10,336
固定資産合計	29,882	28,927
資産合計	102,214	97,016

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,699	12,377
電子記録債務	1,054	648
短期借入金	10,136	5,124
1年内償還予定の社債	264	191
未払法人税等	1,124	518
賞与引当金	656	673
環境対策引当金	—	1,200
その他の引当金	52	20
営業外電子記録債務	82	84
その他	6,484	6,884
流動負債合計	32,555	27,722
固定負債		
社債	2,149	1,362
長期借入金	6,508	7,600
退職給付に係る負債	658	674
その他の引当金	52	57
その他	1,915	1,923
固定負債合計	11,285	11,617
負債合計	43,841	39,340
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,939	14,939
資本剰余金	15,068	15,068
利益剰余金	31,553	32,458
自己株式	△1,728	△1,801
株主資本合計	59,832	60,664
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	583	733
為替換算調整勘定	△4,607	△5,230
退職給付に係る調整累計額	630	620
その他の包括利益累計額合計	△3,392	△3,876
非支配株主持分	1,933	888
純資産合計	58,372	57,676
負債純資産合計	102,214	97,016

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	29,041
売上原価	19,769
売上総利益	9,272
販売費及び一般管理費	7,700
営業利益	1,571
営業外収益	
受取利息	38
受取配当金	45
不動産賃貸料	37
持分法による投資利益	400
デリバティブ評価益	236
その他	86
営業外収益合計	844
営業外費用	
支払利息	212
為替差損	1,037
その他	104
営業外費用合計	1,355
経常利益	1,060
特別利益	
固定資産売却益	1,689
特別利益合計	1,689
特別損失	
固定資産処分損	35
環境対策費	1,390
特別損失合計	1,425
税金等調整前四半期純利益	1,324
法人税等	693
四半期純利益	631
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△589
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,220

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	
四半期純利益	631
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	150
為替換算調整勘定	△1,012
退職給付に係る調整額	△10
持分法適用会社に対する持分相当額	△54
その他の包括利益合計	△927
四半期包括利益	△296
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	736
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,032

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	
当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,324
減価償却費	712
のれん償却額	117
受取利息及び受取配当金	△83
支払利息	212
持分法による投資損益 (△は益)	△400
固定資産売却損益 (△は益)	△1,689
固定資産除却損	35
売上債権の増減額 (△は増加)	8,270
たな卸資産の増減額 (△は増加)	377
仕入債務の増減額 (△は減少)	379
環境対策引当金の増減額 (△は減少)	1,200
その他	1,871
小計	12,328
利息及び配当金の受取額	206
利息の支払額	△190
法人税等の支払額	△1,136
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,208
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△482
有形固定資産の売却による収入	1,700
無形固定資産の取得による支出	△94
定期預金の預入による支出	△1,744
定期預金の払戻による収入	1,376
その他	△15
投資活動によるキャッシュ・フロー	740
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	716
短期借入金の返済による支出	△5,187
長期借入れによる収入	1,774
長期借入金の返済による支出	△536
社債の償還による支出	△196
リース債務の返済による支出	△71
配当金の支払額	△315
非支配株主への配当金の支払額	△12
自己株式の処分による収入	1
自己株式の取得による支出	△75
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,902
現金及び現金同等物に係る換算差額	△743
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	7,302
現金及び現金同等物の期首残高	12,586
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,888

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当第2四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定については、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	農薬	農薬以外の 化学品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	25,702	2,440	28,142	898	29,041	—	29,041
セグメント間の内部売上高 又は振替高	12	0	12	455	468	△468	—
計	25,714	2,440	28,155	1,354	29,510	△468	29,041
セグメント利益	894	905	1,800	152	1,953	△381	1,571

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、造園緑化工事、不動産の賃貸、物流サービス、農薬残留分析ほかを含んでいます。

2 セグメント利益の調整額△381百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△381百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。